

令和2年8月 データから見た業界の動き

■ 概 況

8月の山梨県内のD I値は、業種全体で売上高は▲48ポイント（前年に比べ▲40）、収益状況は▲50ポイント（前年に比べ▲36）、景況感▲48ポイント（前年に比べ▲30）となり、売上高と景況感については7月よりも多少の回復傾向を示し、経済活動再開の影響が出ていると思われる。

製造業では、売上高▲70（前年に比べ▲55）、収益状況▲65（前年に比べ▲35）、景況感▲65（前年に比べ▲35）となった。

お盆を含む夏休み期間となり、例年業種を問わず生産・事業活動が低下する時期であるが、菓子製造業ではコロナウイルス感染者の再拡大により外出自粛感が強まったことから売上が伸び、前年同月比33%増の売上を記録した。また、住宅関連木材やインテリア関連は新築住宅需要が徐々に増加していることから、仕事量が増加しているとの報告がされた。しかし、ほとんどの製造業ではコロナウイルスの影響による景気低迷から抜け出せる要素や兆しを見つけることが出来ずにいる。これまで経済を牽引してきた半導体・液晶製造装置、自動車産業などが国内外で活気づくまでは売上の回復は見込めないと先行きを懸念する声が多い。

非製造業でも、売上高▲33（前年に比べ▲30）、収益状況▲40（前年に比べ▲37）、景況感▲37（前年に比べ▲27）と前年同月に比べて悪化しているが、売上高と景況感については、7月に比べて大幅にアップしたため、業種全体の数値を引き上げることとなった。

猛暑の影響やコロナ関連給付金・補助金により、家電の売り上げや一般家庭需要の食品（青果・食肉・水産物など）は伸びたものの、卸売・旅館やホテルでの飲食材料の需要は回復していないとの報告がされた。これは、宿泊業の▲40%の売上という状況からも裏付けされるものと考えられる。また、各種業界の稼働状況の悪さを証明するように産業廃棄物の売上も良くない。

一方、建設業界は公共工事はほぼ予定通りに発注が進んでいるものと考えられるが、民間の設備投資には陰りが見え、早ければ秋以降受注量の減少が顕在化するとの声もあった。

D. I値から8月は全産業で、さらに昨年度対比・前月対比の両方で収益の悪化が見られる。少ない需要を奪い合う受注単価競争の激化とこれまでの売上減に対し変わらない経費負担による経営状況の悪化などの要因が考えられる。赤字の長期化により事業継続をあきらめてしまう判断にもつながる。国主導の各種キャンペーン効果はまだまだ市場には届いていないとの声もあり、持続化給付金等の再給付が求められる可能性もある。中央会では中小企業者の動向を適確にとらえ、必要とされる情報提供をより一層強化することとしている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品 (水産物加工業)	水産物加工業では、ギフトの売り上げは前年同月まで回復したが、ホテル・レストラン・居酒屋等の業務用品の売り上げは前年同月比64.2%である。
-----------------	---

<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>菓子製造業では、新型コロナウイルスの影響により外出が減り、自宅での時間が増えたことにより、冷菓や菓子全般的に売り上げは好調で前年同月比133%となった。</p>
<p>食料品 (酒類製造業)</p>	<p>長引くコロナ禍において、ワイン業界は窮地に立っている。山梨は国産ワインの発祥の地として、G I 認証などを取得し国内外へ積極的に販路を展開してきた。しかし、新型コロナウイルスの世界的感染症により、輸出はほぼ停止した状況にある。また、国内の飲食店は、度重なる営業時間の規制により来店客が増えない。山梨県を訪れる観光客は年間約3770万人、その内約3割弱が東京からの観光客による。今後、政府の施策であるGoToトラベルキャンペーンによる需要回復に期待したいが、10月1日に施行される酒税税率改正に伴い、ワインは1Lあたり10円の増税となる一方、EPAなどの経済連携協定により輸入ワインの関税が引き下がるため国産ワインの需要回復は厳しい状況である。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>服裏地・傘地は、例年と比較して発注が少なく売り上げが減少してる。インテリア関係・ネクタイは、売り上げが回復してきた商品がある。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>イベントや展示会が中止となっているため、商品を広く周知・PR出来る機会がなくなってしまった。今後は、個別商談を強化する他、インターネット通販等を活用した商品販売やPR方法を模索していく必要がある。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>現状、受注案件は多く、休日返上でこなしている。住宅着工数は減っているが、新規の物件数は堅調に推移していると感じる。但し、今後の景気動向は予測出来ず見通しは良くない。</p>
<p>家具製造</p>	<p>8月中旬のお盆前までの売り上げは減少傾向であったが、お盆明け以降は取引先からの受注が少しづつ回復している。</p>
<p>印刷・同関連業</p>	<p>8月もコロナの影響により多くのイベントやセミナーが中止となり、印刷物の発注が取り止めとなった。取引先の不況が当業界にも影響しており、売り上げは減少している。</p>
<p>窯業・土石 (砂利)</p>	<p>地域により需要量が異なり、売り上げに格差が生じている。8月は天気が安定し骨材の採取は行うことが出来たため、今後の公共工事の進捗も含め期待をしている。</p>
<p>窯業・土石 (山碎石)</p>	<p>コロナの影響で工事期間が伸びたため、予定通りに製品が販売出来ていない。また、舗装工事に係る路盤材などの付加価値の高い製品の出荷数量が落ち込んだために、出荷数量の減少率よりも売上高の減少率の低下が大きい。大型工事が発注されない限り、この状況を脱するのは困難だと考えている。</p>

鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	コロナの影響でトヨタやホンダ等の取引先の工場が稼働していないため、部品等の生産がストップしている他、全体的な仕事量も減少している。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	業界では取引先によって売りにバラツキがある。前年同月比の売上げは減少しているが、週3日休みにしていた企業も通常定休日に戻り、少しずつ受注が回復してきている。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月比の売上げは減少したが、自動車関連の受注は少しずつ回復傾向にある。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	コロナの影響により受注量が減っているため売上げが減少。今後、終息の見通しが読めない中で受注量をどのように回復させていくか、また、企業を維持するために資金調達を考えていかなければならない。
電気機器 (電気機械部品加工業)	コロナの影響による売上げ落ち込みは感じていない。現状では、昨年と同等の売上げは確保出来ている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	半導体及び液晶製造装置、超音波装置製造関係など、今回のコロナ禍による国内需要の低迷や輸出の落ち込み、全世界の人の移動の制限による航空機の製造の落ち込みが原因となり受注量が減少している。
宝飾(研磨)	イベント・展示会等が中止となったことや外国からのバイヤーが入国できないため、売上げは減少している。通訳を入れてオンラインで商談したが、売上げは上がらない。
宝飾(貴金属)	コロナの影響で県外への外出を自粛していることにより、営業活動の縮小や県外からのバイヤーの来県もないため、発注が少なくなり前年同月比▲60%と売上げは減少している。インターネット販売等、新たな販売チャネルの開拓に力を入れているが、高額商品の販売はほとんど無い。

● 非製造業

卸売(紙製品)	経済の停滞により物流量が減少。梱包材や包装材に使用される紙製品の量が減少し、当業界の売上げは減少している。
小売(青果)	スーパーへの野菜や果物の納品が増えてきている他、少しずつホテル・旅館への納品も増えてきている。

小売（食肉）	前年同月比よりも売り上げは減少しているが、観光地のホテル・旅館や飲食店が多少持ち直してきているため、悪いながらも少しずつ売り上げは回復傾向にある。
小 売（水産物）	コロナの影響で飲食店の売り上げが減少している。また、8月は例年開催しているイベントが中止となったため、売り上げが減少した。
小 売 （電気機械器具小売業）	8月は猛暑によりエアコンの需要が拡大した。コロナ関係の補助金等により空気清浄機の需要も拡大したため売り上げは増加した。
小 売 （事務機小売業）	昨年度は、県関係の大きな入札があったため、昨年同月比では売り上げは減少。コロナの影響で価格競争に拍車がかかった感が強いと感じている。
小 売 （ガソリン）	8月に入って徐々に売り上げは回復傾向になっているが、観光地での売り上げについては未だに厳しい状況が続いている。
商店街	コロナの影響により、イベントが開催出来ないため、組合員店舗の売り上げは前年同月比よりも減少している。
不動産取引業	昨年度から準備していた分譲地の販売が始まり、8月で契約となった土地販売があったため、昨年同月比よりも売り上げは増加した。
宿 泊 業	8月は、GoToトラベルキャンペーンの効果もあり、お盆期間中や土日の宿泊客は回復傾向であったが、平日の空室があるため、前年同月比で▲40%の売り上げとなっている。今後も宿泊客に安心して利用してもらえるように「やまなしグリーンゾーン」の認証を申請する等、ホテル・旅館ごとに感染防止対策に力を入れていきたい。
美 容 業	今後は、お客様の来店頻度が今まで以上に少なくなってくる可能性もあるため、組合員店舗の売り上げ減少が懸念される。個人店舗では固定客がいるが、大型店では客足が減少している状況である。
一般廃棄物処理	収集・運搬は、飲食（ファミレスや飲酒を伴う店舗）、ホテル・旅館（ビジネス・リゾート施設を除く）等の売り上げ状況は芳しくない。ゴミ処分では、中国関係の廃プラスチック製品に関するサイクルフローの沈滞やマイクロプラスチック問題の動向により今後の展開が不透明である。また、古紙取り引き市況の下落が止まらない。

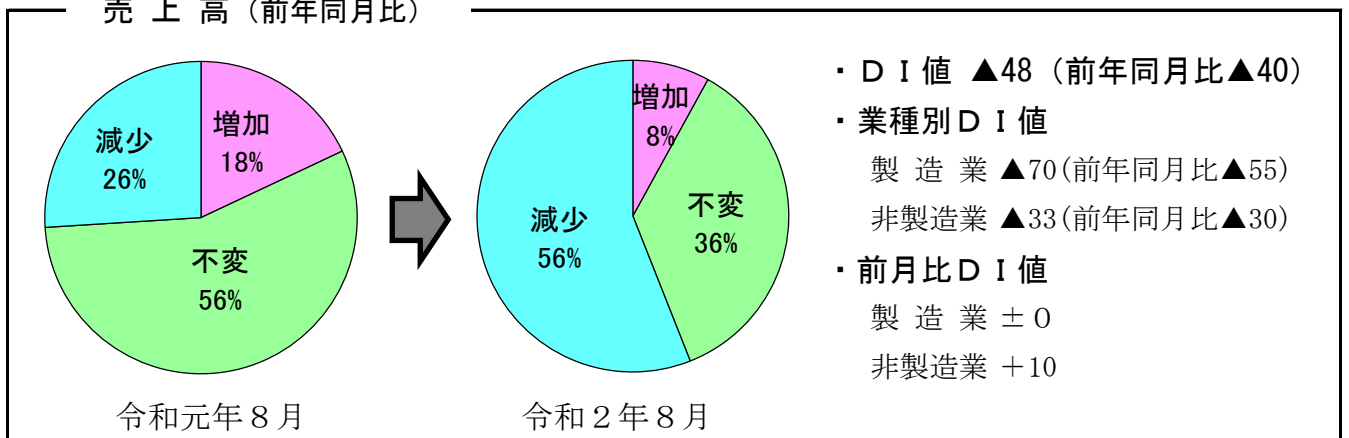
警 備 業	8月はイベント警備の中止や観光客の減少などにより売り上げは減少したが、土木建設工事関係の警備が増加したことにより全体のマイナス幅を少なくすることが出来た。しかし、利益率が少ない現場が多いため、会社の資金繰りは依然として厳しい状況である。
建設業（総合）	8月の県内公共工事動向によると、前年同月に比べ、件数6%、請負金額では39%それぞれ減少した。8月末累計では、件数は10%増加しているものの、請負金額は2%の減少となっている。
建設業（型枠）	例年、公共工事の発注があるため、8月のお盆前後は忙しい時期となる。今年度の仕事量については例年通りある程度確保出来る。コロナの影響を受けて、公共工事の減少や民間の設備投資は低調で、来年度以降の見通しは見えない状況である。
建設業（鉄構）	労働安全衛生法施行令の改正により、ばく露防止の特定化学物質（第2類物質）にアーク溶接時に発生する溶接ヒュームと塩基性酸化マンガンを加えられることとなり、換気設備の整備、環境測定、健康診断などが義務付けられるため、企業の負担増が懸念される。
設備工事 （電気工事）	コロナによる電気工事業界への影響は、現在では大きく顕在化していないが、経済活動の停滞が長引くことにより建設投資意欲を削ぐことを懸念している。
設備工事 （管設備）	漏水工事が増加し、売り上げが増加した。新規の住宅着工またはリフォーム需要は微減。民間の設備投資も滞っており、先行きの見通しはあまり良くない。
運輸 （トラック）	夏休みの短縮や県外移動の自粛等により、観光に付随した荷物の動きが減少傾向であった。一部宅配関係ではお中元などの動きがあったものの例年に比べたら減少している。今後に関しても、景気回復の兆しが見れず引き続き厳しい情勢に変わりはないと見られる。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

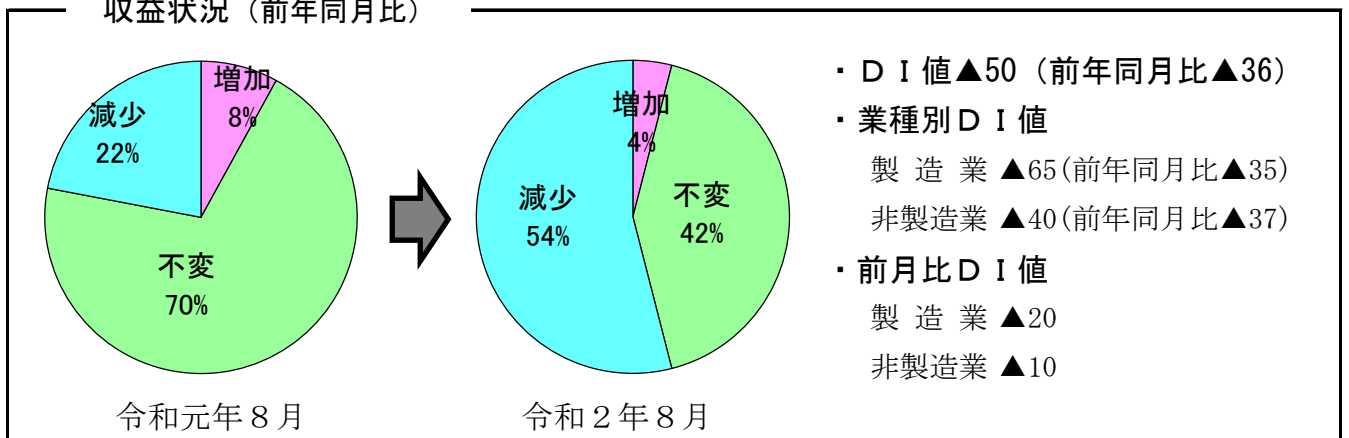
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2019/8	2020/7	2020/8	2019/8	2020/7	2020/8	2019/8	2020/7	2020/8
売 上 高	-15	-70	-70	-3	-43	-33	-8	-54	-48
収 益 状 況	-30	-45	-65	-3	-30	-40	-14	-36	-50
景 況 感	-30	-70	-65	-10	-50	-37	-18	-58	-48

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D. I 値

売 上 高（前年同月比）



収 益 状 況（前年同月比）



景 況 感（前年同月比）

